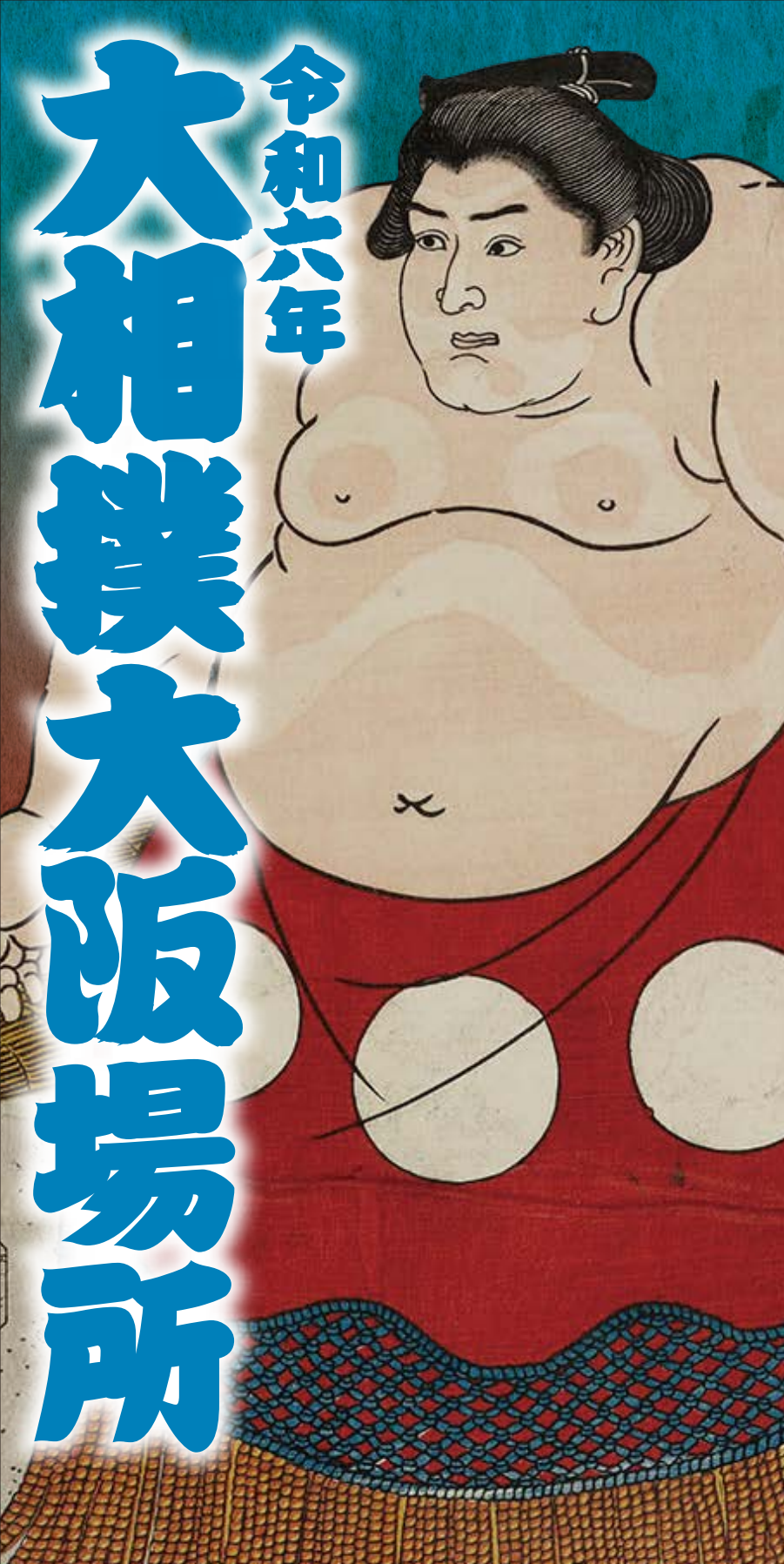




◆大相撲よもやま話◆

巡業

年6回の本場所の合間に、全国各地を力士たちが訪れ、体育館などで開催される「巡業」。本場所と同じく、取組や幕内土俵入り、横綱土俵入り、弓取式などが行われるだけでなく、巡業ならではの醍醐味にあふれたイベントだ。

まず、朝稽古が公開される。力士たちが勝ち抜きで何番も相撲を取る「申し合い稽古」や、ぶつかる力士と受ける力士に分かれ、相撲の基本となる押しと受身の型を身につける「ぶつかり稽古」などの迫力ある姿を間近で見ることが出来る。

取組の合間には、「お好み」と呼ばれるさまざまなプログラムが行われる。2人の若手力士と行司が、禁じ手や珍しい決まり手などをコミカルにわかりやすく紹介する初っ切り。独特の節回りで美声の力士が情緒たっぷりに歌い上げる相撲甚句。呼出しが



朝稽古



初っ切り

太鼓のさまざまな打ち方を披露する樽太鼓打ち分け実演。床山が大銀杏を結び上げるまでを人気力士をモデルに披露する髪結い実演。付け人たちが数人がかりで横綱の腰に綱を巻き、締め上げる横綱綱締め実演。いくなれば、大相撲のさまざまな魅力の見本市だ。さらに、力士たちが観客からの質問に答える質問コーナー、握手会が設けられたりするなど、力士と触れ合う機会も多い。



髪結い実演



相撲甚句



横綱綱締め実演



樽太鼓打ち分け実演

巡業には、三月場所後、近畿・中部・関東地方中心の春巡業、七月場所後、東北・北海道地方中心の夏巡業、九月場所後、中部・近畿・中国・四国地方中心の秋巡業、十一月場所後、九州地方中心の冬巡業という4つのシーズンがある。今年三月場所後の春巡業の日程は左のとおり。ぜひとも足を運んで、大相撲の多彩な魅力を感じてほしい。

- 令和6年春巡業スケジュール
- ▽3月31日 伊勢神宮奉納(三重)
 - ▽4月1日 箕面市(大阪)
 - ▽2日 新温泉町(兵庫)
 - ▽3日 一宮市(愛知)
 - ▽4日 犬山市(愛知)
 - ▽5日 福井市(福井)
 - ▽7日 富山市(富山)
 - ▽11日 御殿場市(静岡)
 - ▽12日 川越市(埼玉)
 - ▽13日 藤沢市(神奈川)
 - ▽14日 さいたま市(埼玉)
 - ▽15日 靖国神社奉納(東京)
 - ▽18日 浦安市(千葉)
 - ▽19日 川崎市(神奈川)
 - ▽20日 横浜市(神奈川)
 - ▽21日 前橋市(群馬)
 - ▽25日 木更津市(千葉)
 - ▽26日 水戸市(茨城)
 - ▽27日 所沢市(埼玉)
 - ▽28日 深谷市(埼玉)



質問コーナー



会場や問い合わせ先などの情報は日本相撲協会のホームページをご覧ください。



救心製薬株式会社



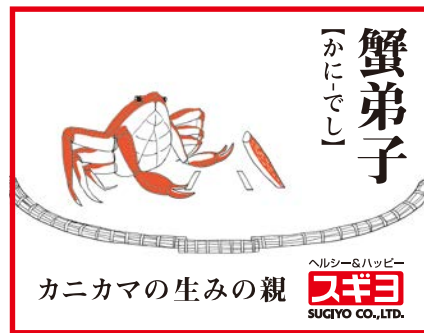
紀文



紀文



紀文



ヘルシー&ハッピー スギヨ SUGIYO CO., LTD.



おいしいサラミ



紀文

◆大阪場所の優勝力士◆◆◆

大鵬休場の場所、大関の責任果たす

昭和44年三月場所優勝

琴櫻（東張出大関 13勝2敗）

場所前の話題は、円熟期を迎えた東横綱大鵬一色だった。3場所連続全休明けの昭和43年九月場所、初日黒星の後14連勝して27回目の優勝を果たし不死鳥のようによみがえると、十一月場所と44年一月場所とともに全勝優勝。連勝は自己新記録の44に達し、不滅といわれた双葉山の69連勝も見えてきた。注目を一身に集めて迎えた三月場所初日、西小結藤ノ川を上手出し投げで退け45連勝。4連覇に向けて順調にスタートを切ったかに見えた。

ところが二日目、初顔合わせの東前頭筆頭戸田の鋭い押しに後退し、土俵を飛び出しながら叩いて軍配を受けたものの、物言いの末に差し違えて初黒星。連勝が45で止まる大波乱だ。しかも、映像では戸田の足が出るのが早いように見え、物議をかもした。そんな中、三日目、四日目と連勝した大鵬だが、五日目から急性肺炎のため休場を余儀なくされる。

大本命だった大鵬の突然の休場で、優勝争いは一気に混とんとした。この場所、大鵬以外の上位陣は、西横綱柏戸、東大関玉乃島、西大関北の富士、東張出大関琴櫻の4人。八日目を終えて柏戸、北の富士、琴櫻が平幕3人と1敗で首位に並び、玉乃島も1差の2敗で追っていたが、九日目から柏戸、玉乃島、北の富士が相次いで下位力士に取りこぼし、後退していく。そんな中、奮戦を続けたのが琴櫻だった。

琴櫻はこの場所、大関9場所目の28歳。頭からぶちかまし、右を差して出る圧巻の相撲で、4場所前の43年七月場所には初優勝を果たしていた。しかし、九月場所は左足親指骨折で途中休場。十一月場所は十勝したが、44年一月場所は5勝10敗。当時は大関陥落の条件が3場所連続負け越しだったため、三月場所はカド番ではなかったものの、場所前は調子が上がらず、休場も心配された。

しかし、場所が始まると次第に調子を上げていく。初日は西前頭三枚目大雄を寄り切り、二日目は東前頭三枚目栃東、三日目は東前頭四枚目高鉄山、四日目は戸田、五日目は西前頭二枚目前の山をいずれも押し出して5連勝。単独首位に立った。六日目は藤ノ川に突き倒されて初黒星を喫したが、七日目は東小結麒麟児を寄り切り、八日目は東前頭五枚目栃富士を上手出し投げで退け、九日目は東前頭二枚目海乃山を寄り切つて勝ち越し。十日目は西関脇清國を突き落とし、この時点で琴櫻と西前頭九枚目龍虎の2人が首位に並ぶ展開に。十一日目は、抜擢されて東小結麒麟児と対戦した龍虎が勝った後、琴櫻は西前頭五枚目陸奥嵐を寄り倒す。この日、1差の2敗だった玉乃島と北の富士が相次いで敗れて2差がつき、琴櫻と龍虎の一騎打ちの様相を呈するなか、十二日目に1敗で首位に並ぶ両者の直接対決が組まれた。

注目の一番で、琴櫻は硬くなったか足が出ず、叩き込まれて首位から陥落してしまふ。しかし、気



◆大相撲「モノ」語り◆◆◆

髷

髷は、大相撲が江戸時代の伝統を今に伝えていることを一目で感じさせてくれる、力士に欠かせないシンボルであり、大きく2種類に分けられる。

一つは、束ねた髪を縛って折り返し、まとめる「ちょん髷」。もう一つが「大銀杏」で、頭に載った髷の先や、たぶさを張り出すように広げた形が銀杏の葉に似ていることからその名がつけられた。大銀杏はちょん髷に比べて格段に美しく、十両以上の関取にしか許されない、関取の象徴だ。取組のほか、公式行事の時だけに結び、日常生活では関取もちょん髷にしている。

ただし、大銀杏が関取にのみ許されるように



芸術品のように美しい「大銀杏」



床山の道具箱。さまざまな種類の櫛やにぎりばさみ、大銀杏を整えるときに使う髷棒などが並ぶ

なったのは大正時代末期で、それ以前は厳密な決まりはなかった。江戸時代の力士を描いた錦絵を見ると、前頭部から頭頂部を刺つた月代のある力士もない力士もあり、さまざまな髷が存在していたことがわかる。髷を結う専門職が床山で、大銀杏が結えるようになるには個人差はあるが5〜10年かかるといわれる。髪の色が多い力士は、髷をきれいに結うため、頭頂部の髪を剃る「中剃り」を行う。



日本相撲協会公式YouTubeチャンネルの「おすもうさんの「まげ」の秘密」では、中剃りを行うところも含め、ちょん髷が結い上がるまでを動画で見ることができる



日本相撲協会
公式YouTubeチャンネル
「おすもうさんの「まげ」の秘密」

持ちは切れなかった。十三日目に龍虎が藤ノ川に敗れ、琴櫻は柏戸に一気に寄り立てられながらもよく残し、左四つから下手投げで破つて2敗を守り、再び首位に並んだ。十四日目は龍虎が清國を破り、琴櫻は玉乃島との大関対決で左上手を素早くつかみ、突き立てられても廻しを離さず、最後は吊り出して、ともに2敗を守った。

2敗で琴櫻と龍虎が首位に並んで迎えた千秋楽、三役揃い踏みの後、最初の一番で登場した龍虎に立ちはだかったのが東関脇長谷川。琴櫻と同じ佐渡ヶ嶽部屋の子弟子が、龍虎の突っ張りを冷静に受け止め、叩き込んで這わせた。絶好の援護射撃を受けた琴櫻は、直後の北の富士戦、迷いなく頭で当たつて突き起こし、休まず突き出して快勝。13勝2敗とし、4場所ぶり2回目の優勝を決めた。大鵬の連勝ストップと休場という大きな波乱が続いた場所で、大関としてしっかりと土俵を締めた、価値ある優勝だった。それから55年後の今年、三月場所の土俵には、琴櫻の孫・琴ノ若が新大関として土俵に上がり、初優勝を狙う。



絶好の援護射撃をした長谷川を旗手に従えての優勝パレード

